

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育)

法人名 京都大学

学部・研究科等名 薬学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 : I 「教育の実施体制」

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

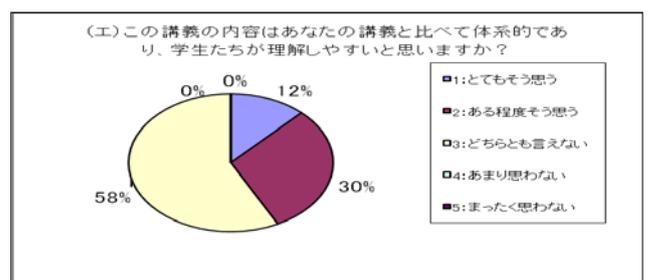
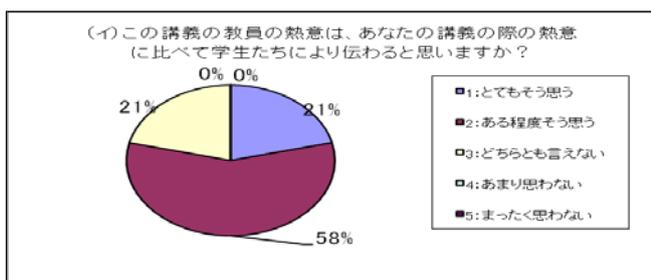
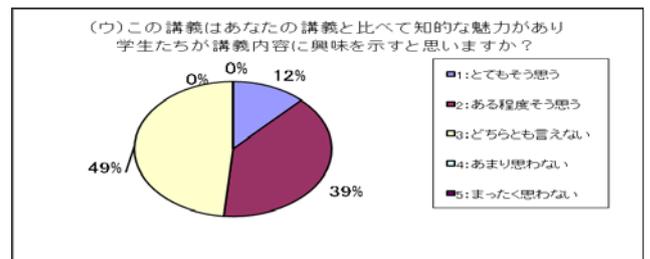
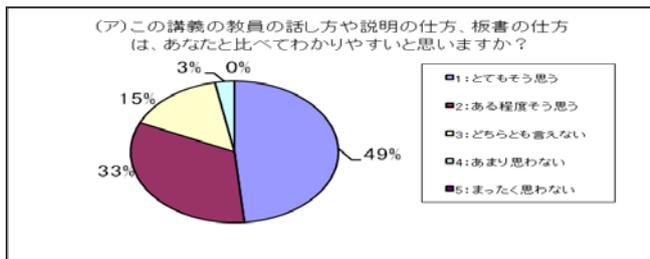
○顕著な変化のあった観点名 : 教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制

平成 19 年度に実施した授業評価アンケートの結果に基づき、その後、教務委員会内に FD 検討ワーキンググループを設けて、教育内容、授業改善の方策を様々な角度から検討した。その結果、平成 21 年度から、授業評価アンケートにおいて学生から最も評価の高かった教員の講義を選出し、他の授業担当教員全員が聴講する機会を設けることを決定した。また、当該授業を聴講した教員は、自己評価を含めた報告書を提出し、今後の自己の授業改善に活用することとした。平成 21 年度に最も評価の高かった「薬用植物学」を聴講した教員の自己評価結果を下図に示す。さらに、平成 22 年度からは、学生の授業評価アンケート結果に対して、各授業担当教員がどのように対応するのかについても報告書に記載することを決定した。

これと並行して、平成 22 年度からは、授業担当教員全員が各授業で使用したレジュメや資料、定期試験の問題及び答案、小テストの問題等を教務掛に提出・保管することを決定した。これらの資料は、自己評価や第三者評価に対応するためであると共に、教育内容、教育方法の改善に活用する。

以上の取り組みにより学部教育には顕著な変化が見られ、教育実施体制は改善したと考えられる。

[平成 21 年度実施の評価の最も高かった教員の講義聴講における自己評価報告書の結果]



現況分析における顕著な変化についての説明書(教育)

法人名 京都大学

学部・研究科等名 薬学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 : IV「学業の成果」

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

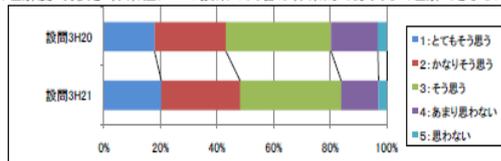
○顕著な変化のあった観点名 : 学業の成果に関する学生の評価

平成19年度後期～21年度にも引き続き学生による授業評価アンケートを実施した。その結果を下図に示す。平成18年度に暫定的に評価したアンケートでは、肯定的な意見の学生は、1（理解度）については52%、2（知的魅力）については78%、3（教員の熱意）については46%であったが、今回の結果ではいずれの項目に関しても、80～90%以上の学生が肯定的な回答（「とてもそう思う」「かなりそう思う」「そう思う」の総和）をしており、学生の満足度は大幅に上昇していることが判明した。したがって、本観点については、顕著な変化があったと判断できる。

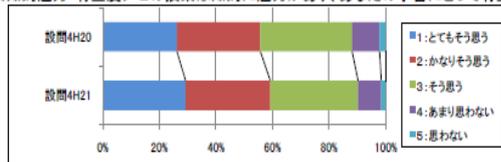
○授業アンケート

科目名: H20～H21前期授業科目

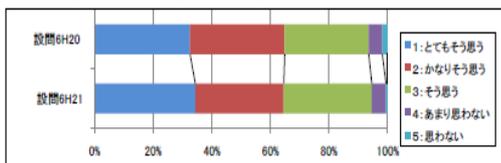
1. <理解度・明快さ・体系的性>この授業の内容は体系的であり、よく理解できましたか。



2. <知的魅力・有益度>この授業は知的に魅力があり、あなたの学習にとって有益でしたか。



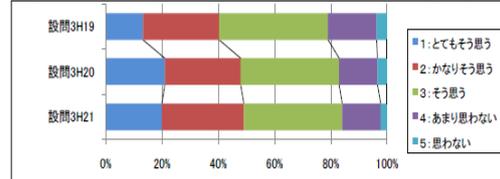
3. <教員の熱意>授業に対する教員の熱意を感じましたか。



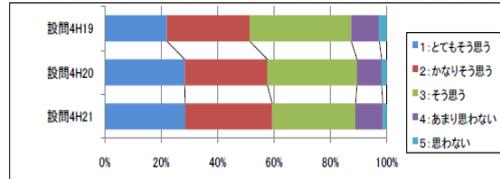
○授業アンケート

科目名: H19～H21後期授業科目

1. <理解度・明快さ・体系的性>この授業の内容は体系的であり、よく理解できましたか。



2. <知的魅力・有益度>この授業は知的に魅力があり、あなたの学習にとって有益でしたか。



3. <教員の熱意>授業に対する教員の熱意を感じましたか。

